



Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス 本のある人生

2021年1月 vol.12

ワクワク!ドキドキ! 2021年の幕開けです。

読書は、読解力、創造&想像する力、発見力、共感力、コミュニケーション力、

問題提起する力など様々な効果をもたらしてくれます。またOasis meets Booksの中で紹介された本は何故か読みたくなる不思議な感覚を覚えます。

今年はどうな本と巡り合えるか、とても楽しみです(#^_^#) (副委員長: 徳廣 波江)

失はれる物語 / 乙一

グループホーム オアシスキズリ / 介護士 浦 一希



人間が当たり前のようにする「会話」や「動作」。しかしある日、交通事故によって植物状態になり、唯一の意思疎通の手段が右腕だけになってしまった男の物語。

ピアノ教師だった妻が奏でる演奏。そこから流れてくる気持ちや感情は右腕を通して痛ほど理解できるのに、自分の気持ちを表す方法がない。

目も見えない、耳も聞こえない、わずかな右腕の感覚だけで相手に自分の「思い」を伝える。そして男は、ある決断を下します。切ない話ですが、心の通う瞬間、気持ちを伝える事の出来ないもどかしさ... 何とも言えない不思議な感覚になる一冊です。

相手の「気持ち」を理解できても、「言葉」があっても、「思い」はなかなか伝える事は出来ません。大人になるにつれ、色々なことを経験するほど、そうだと思います。間違えることがあっても、後悔することがあっても、人の感情が流れ込んでくるような時、感覚を澄ませて相手の感情を汲み取る。そういう思いを知る事が出来る一冊だと思います。

・次回⇒グループホーム オアシスキズリ / 介護士 中村 晃



審判 / ディック・フランシス

グループホーム オアシス平野 / 介護士 荒田まゆみ



私が最初にこの作品に触れたのは8年前くらい前、高血圧のため検査入院していた時、病院内の文庫から何気なく手にした1冊でした。地に落ちた名誉を、主人公が再び取り戻していく物語。

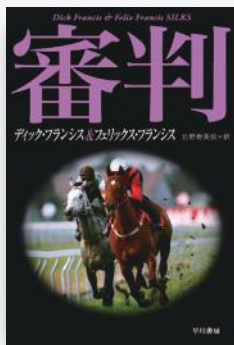
以来その面白さの虜になり全作品とはいきませんが、23作品を読み上げました。どれも文句なく面白い。

推理小説といってもどんでん返しがある訳ではありません。とにかく文体が面白い。オーソドックスな展開なんです。極限の状況に追い込まれても不屈の精神で立ち上がり、悪人たちが成敗されるのは、おそらくフランシス作品に通底するテーマだと思います。

「私は、父の5番目の妻を心底から嫌っていたが殺すことを考える程ではなかった」(黄金)「私は、これまでに4人のスポーツ記者が断った仕事を引き受けたが、その時は腹が減っていたのだ」(標的)どの作品についても1、2行のさりげない文章で、グイッと読者を物語に引き込むうまさにいつも舌を巻きます。作品の邦題がすべて漢字2文字というのも私は惹かれます。ちなみに「勝利」「本命」「利腕」「拮抗」「烈風」等々、題名からして競馬についての本?と思われる方もおられるでしょうがそうではなく、登場人物は様々で、元騎手だったフランシスだからこそ書けるミステリー小説だと思います。

是非皆さん、漢字2文字のこのフランシス作品を一度読んでみてください。「審判」に出てくるパリスタ(法廷弁護士)とソリスタ(事務弁護士)の違いや、弁護士勸選制度固有の法制度を有するイギリスの司法の仕組みなど、イギリスの風が吹く文体にきっと魅了されることと思います。

・次回⇒グループホーム オアシス平野 / 介護士 柳生 莉奈



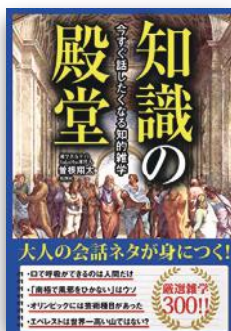
今すぐ話したくなる知的雑学 知識の殿堂 / 曾根 翔太

特養オアシス寿安 生活支援課 / 課長 井中 雅美



私が紹介する本は話のネタに困ったときに役に立つ【知識の殿堂】です。

そもそも親しくない人と話をするのが最も苦手な私が、仕事でご利用者様、ご家族様また同じ職場で働く職員の方とのコミュニケーションの手段の一つとして活用出来たらと思いこの本を選びました。読んでみると「そうなんだ」と思うことがたくさんあります。



例えば、コンセントの差込口は左右で長さが違います。左の穴が長く、右の穴は短くなっています。他にもマンホールのふたが丸い理由や缶飲料の飲み口は左右対称ではない理由、漢字の振り仮名を「ルビ」と呼ぶ理由など普段何気なく使っている言葉ですが改めて「どうして?」と聞かれると「???」です。内容が楽しいのであつという間に読み終えてしまいます。

少しでも興味のある方は是非読んでいただけたらと思います。もちろんお子様にもお勧めです。

・次回⇒特養オアシス寿安 / 副事務長 栗見 陽一

雑談がおもしろい人、つまらない人 / 渡辺 龍太

特養オアシス寿安 生活支援課 / 柔道整復師 谷田部 直之



【口下手・人見知りで雑談が苦手...】【相手に『話がつまらない』と思われていないか不安...】【とにかく『沈黙が訪れる』のが怖い。】

これらの悩みをお持ちなのは、雑談の本当の役割を知らないことからくる誤解です。という冒頭の一文で、まさにこれは人生のバイブルになるのでは!?!と思ひ、早速、オアシス文庫で借りてみました。

私は雑談とは公私ともに一生必要なコミュニケーションツールだと思っています。これまでコミュニケーションの取り方に、不満や後悔することが多かったため、この本は私にとって『目から鱗』といった内容が盛りだくさんで、大変参考になりました。

この本の著者はアメリカで科学的に研究された『インプロ』(即興力)というアドリブトーク術の専門家として活動されている方で、肩書を見ると突っ込みたくなりますが、日常でも介護の現場でも参考にできる内容だと思いますので、皆さんも一度手に取って試してみられてはいかがでしょうか。



・次回⇒デイケア オアシス寿安 / 介護士 鈴木 由美子

ベルリンは晴れているか / 深緑 野分

特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 山田 真司

たまたま本屋に入った時、目に留まったのがこの1冊でした。「ベルリンは晴れているか」作者は深緑野分（ふかみどりのわき）。表紙には少女が描かれていますが目は描かれておらず、作者も女性なのか男性なのか分からず気になって購入してみました。



時代設定はナチス崩壊後のドイツの話となりますのですが、主人公の少女がヒトラー全盛期の頃から今に至るまでの自らの体験を振り返り、過去と今を交互に行き交うストーリー構成になっています。

作中ではユダヤ人やポーランド人、ドイツ共産主義者等が理不尽な迫害を受ける様子や、戦争により人々の心が荒んでいく姿がありありと描かれており、第二次世界大戦中のドイツの克明な描写に衝撃を受けました。著者の臨場感あふれる文章から、まるでその場に居るような気分に陥りました。

戦争時代を知らない私達だからこそ、今、この本を手にとって読む価値があるのだと強く感じました。全て読み終わった後、表紙の目が描かれていない理由とタイトルの意味がわかるはずですよ。



・次回⇒ 特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 安藤 翔太郎

“自分らしさ”を愛せますか / レオ・バスカリア (レオ・ブスカリア)

管理本部 総務部 (カウンセリングルーム) / 公文 レイナ

鑑定家の私は、中国の歴史書「史記」にある風水や初代皇帝「始皇帝」の諸説ある実父説で辣腕の商人呂不韋が実父という、小説のような話も教訓と考えています。



民主主義の先導の萌芽、人格者と言わしめた呂不韋ですが、始皇帝は呂不韋を嫌悪し、後に誤解をしていたと気付くもこの出来事や判断が、人生・歴史を大きく変えたと言えます。もし、始皇帝が歩み寄れて誤解が解けていたら？コミュニケーションの大切さを痛感する話です。短い時間で選択したものを、一生後悔する人もおられます。

この本（画像は当時の1983年度の第8刷版ですが、現在は復刻版でデザインが違います）は、私が番組出演でホテルに長期滞在中、フロントマンに「ファンの方から預かった」と渡されました。

女性論を列挙するのではなく、人は同種であっても同等ではなく、時に拮抗しても、お相手の特性を賛嘆し、欠落をそっと補えるそんな人生の在り方さえ教えてくれそうです。

自分の経験や知識だけで人を推し量ることなど不可能です。命の大切さを学ぶ絵本『葉っぱのフレディ』の著者でもあり、自ら「幸せ」と言える人が増える本かも知れません。

・次回⇒ 老健 事務管理課 / 副事務長 橋本 俊宏

陽気なギャングが地球を回す / 伊坂 幸太郎

老健 オアシス デイケア・ショート / 柔道整復師 伊藤 孝二

伊坂幸太郎さんの作品の中で、一番好きな作品です。著者の長編小説三作目であり、シリーズ第一作(第三作まで出版)です。



どこがおすすめなのかと問われたら、『面白い』の一言に尽きます。四人組の銀行強盗が繰り広げるドタバタ劇。四人は、特殊な能力を持っていて、嘘を見抜く天才、天才スリ、演説の達人、精確な体内時計を持つ者。嘘を見抜く天才が物語の中心ではあるのですが、他の人物の個性も強く、ミステリーのように進んで行き、最後までどうなるのかわかりません。

物語の最初は、銀行強盗が上手くいったと思っていたら、逃走中の現金輸送車襲撃犯に横取りされる事から始まります。そして、横取りされた現金の奪還中に様々な事が起こります。

ところどころにたくさんある伏線は見事に回収され、読後には「こんな銀行強盗なら許せてしまう」「ああ、面白かった!」と思えるストーリー展開です。



・次回⇒ 老健 オアシス デイケア・ショート / 介護士 吉田 侑司

オアシス文庫 recommend



ブラック・ジャック / 手塚 治虫

漫画界の神様と呼ばれる手塚治虫氏の有名作の一つ「ブラック・ジャック」(以下:B-J)。古い作品なので今更かと思う方もいるかも知れませんが、人間関係の微妙や表現力が群を抜いていて未読の方は是非読んでいただきたい作品です。

私がB-Jの中で好きな話は、あるお婆さんがお金にめがつくて同居している息子夫婦に事あるごとにお金を請求していました。息子夫婦も辟易し、何故そこまでお金に執着し、何に使っているのか気になり、息子はお婆さんの後を尾行します。するとお婆さんはある人にお金を渡していました。それは過去に息子が重大な病気を治すのに背負った借金だったのです。当時の主治医はすでに他界しており、法外な値段だったので、お金を受け取っていた主治医の夫人はもう良いと言っているのですが、お婆さんは自分の決めた覚悟を通す為に払い続けていたのです。息子は自分を助ける為に背負った借金だった事を初めて知り、お婆さんの後を追いかけてますが、借金全てを払い終わったお婆さんは安心感から倒れてしまいます。それを見ていたB-Jは息子に法外な値段を提示し、お婆さんを助けるか尋ねます。息子は「一生かかってもどんな事をしても払います!きつと払いますとも!」 B-J「それを聞きたかった」と手術しようとする所で終わります。

自分の説明が拙いので、1話だけではB-Jの人となりはわかりませんが、読んでみたらすぐにわかると思います。

読み終わった読後感は何とも言えないものがあり、お気に入りになる話もきつと見つかります。一度手にとってみてはいかがでしょうか。(教育委員会:末若 弘幸)

老健入り口の書棚「オアシス文庫」から貸し出せます▶



編集後記

後記作成日現在(11月下旬)、府より飲食店等に向けて夜間営業時間の短縮が要請されました。

本紙が発行される頃はどんな新年を迎えているでしょうか。2020年に生まれた色んなルールが気持ちよい形で行き渡り、それらを後押しする薬剤やIT技術、より便利で有効な様々なものが現れる

といいですね。SF小説のような体験を経て、2021年に発表される本はどんな本でしょう。私たちと同じように、書き手もまた手を止めないはず。思わずページを開きたくなるような一冊に出会えますように…。



(教育委員会:中島美和子)